

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5367550号
(P5367550)

(45) 発行日 平成25年12月11日(2013.12.11)

(24) 登録日 平成25年9月20日(2013.9.20)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 83/00 (2006.01)

F I

B 6 5 D 83/00

G

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2009-279285 (P2009-279285)	(73) 特許権者	000000918
(22) 出願日	平成21年12月9日(2009.12.9)		花王株式会社
(65) 公開番号	特開2011-121604 (P2011-121604A)		東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番1
(43) 公開日	平成23年6月23日(2011.6.23)		〇号
審査請求日	平成24年9月4日(2012.9.4)	(74) 代理人	100076532
			弁理士 羽鳥 修
		(74) 代理人	100101292
			弁理士 松嶋 善之
		(74) 代理人	100107205
			弁理士 前田 秀一
		(72) 発明者	稲葉 真一
			東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
			社研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 定量吐出スクイズ容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

スクイズ変形可能なプラスチックからなる容器本体を備え、該容器本体をスクイズ変形させて吐出口から内容液を所定量吐出させる定量吐出スクイズ容器であって、

前記容器本体の少なくとも一部に、スクイズ操作を行うスクイズ操作部が設けられており、

該スクイズ操作部は、鈍角で交差する2面に沿って配置される一対の斜面部を含む山形状断面を有する圧搾面部と、該圧搾面部の山形状断面の裾部と稜線部を介して一体として接合される、円弧状断面又はU字状断面を有する圧搾支持部とからなる横断面形状を有しており、

前記圧搾面部の山形状断面の頂部における所定の位置に指を押し当てて圧搾した際に、前記一対の斜面部が交差角度を拡げるように変形しながら、両側の山形状断面の裾部の間隔を前記円弧状断面又はU字状断面の圧搾支持部との前記稜線部において押し拡げると共に、押し拡げる力が無くなるまで前記斜面部が変形した後、前記圧搾面部は谷形状に反転しないように規制されて、前記所定の位置に指を押し当てて繰り返し行われるスクイズ操作による前記容器本体のスクイズ変形量にバラツキが生じないようにした定量吐出スクイズ容器。

【請求項2】

前記圧搾面部の山形状断面の頂部は、前記一対の斜面部が接合するスクイズ稜線部となっている請求項1記載の定量吐出スクイズ容器。

【請求項 3】

前記圧搾面部の山形状断面の頂部は、前記一对の斜面部の間に介在する平坦なスクイズ面部となっている請求項 1 記載の定量吐出スクイズ容器。

【請求項 4】

前記容器本体は、前記スクイズ操作部の上方に連続する、前記スクイズ操作部とは異なる断面形状を有する上胴部と、前記スクイズ操作部の下方に連続する、前記スクイズ操作部とは異なる断面形状を有する下胴部とを含んで形成されている請求項 1～3 のいずれかに記載の定量吐出スクイズ容器。

【請求項 5】

前記円弧状断面又は U 字状断面を有する圧搾支持部には、該圧搾支持部の保形剛性を向上させる剛性補強リブが、周方向に延設して上下方向に間隔をおいて複数設けられている請求項 1～4 のいずれかに記載の定量吐出スクイズ容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、定量吐出スクイズ容器に関し、特に、容器本体をスクイズ変形させて吐出口から内容液を吐出させる定量吐出スクイズ容器に関する。

【背景技術】

【0002】

スクイズ容器は、例えばスクイズ変形可能なプラスチックからなる容器本体の胴部を手で把持してスクイズ（圧搾）することにより、容器本体をスクイズ変形させて、内容液を吐出口から吐出箇所に向けて所定量吐出させるものである。また、容器本体の胴部をスクイズした際に、容器の変形量にバラツキが生じず、繰り返し行われるスクイズ操作毎に一定量又は略一定量の内容液が各々吐出されるように工夫した、いわゆる定量吐出スクイズ容器も開発されている（例えば、特許文献 1、特許文献 2 参照）。

【0003】

ここで、特許文献 1 の定量吐出スクイズ容器は、容器本体の内部に容器本体の押し込み巾を規制する当接部材を設け、容器本体をスクイズ変形させる際に押圧操作部を当接部材に当接させることで、容器本体のスクイズ変形量を一定範囲に規制して、内容液を一定量ずつ吐出させたものである。また、特許文献 2 の定量吐出スクイズ容器は、容器本体の外周壁を筒状カバー体で覆うと共に、この筒状カバー体に、容器本体の外周壁に向けて反転可能なブリッジ部を形成し、このブリッジ部を反転させることで容器本体の外周壁を所定の変形量でスクイズ変形させて、内容液を一定量ずつ吐出させたものである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開平 10 - 24950 号公報

【特許文献 2】特許第 4074227 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記従来の定量吐出スクイズ容器は、容器本体の内部に当接部材を取り付けたり、ブリッジ部が形成された筒状カバー体を容器本体の外周壁を覆って取り付けたりする必要がある。そのため、構造が複雑になると共に、製造コストも増大する。したがって、当接部材や筒状カバー体を用いることなく、容器本体の形状を工夫することにより、繰り返しスクイズ操作した際の容器本体のスクイズ変形量にバラツキが生じないように規制し、内容液を一定量ずつ吐出できる新たな技術の開発が望まれている。

【0006】

本発明は、容器本体の形状を工夫し、繰り返しスクイズ操作した際の容器本体のスクイズ変形量にバラツキが生じないように規制し、内容液を一定量ずつ吐出できる定量吐出ス

10

20

30

40

50

クイズ容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、スクイズ変形可能なプラスチックからなる容器本体を備え、該容器本体をスクイズ変形させて吐出口から内容液を所定量吐出させる定量吐出スクイズ容器であって、前記容器本体の少なくとも一部に、スクイズ操作を行うスクイズ操作部が設けられている。該スクイズ操作部は、鈍角で交差する2面に沿って配置される一対の斜面部を含む山形状断面を有する圧搾面部と、該圧搾面部の山形状断面の裾部と稜線部を介して一体として接合される、円弧状断面又はU字状断面を有する圧搾支持部とからなる横断面形状を有している。前記圧搾面部の山形状断面の頂部における所定の位置に指を押し当てて圧搾した際に、前記一対の斜面部が交差角度を拡げるように変形しながら、両側の山形状断面の裾部の間隔を前記円弧状断面又はU字状断面の圧搾支持部との前記稜線部において押し拡げると共に、押し拡げる力が無くなるまで前記斜面部が変形した後、前記圧搾面部は谷形状に反転しないように規制される。これによって、前記所定の位置に指を押し当てて繰り返し行われるスクイズ操作による前記容器本体のスクイズ変形量にバラツキが生じなくなる。

10

【発明の効果】

【0008】

本発明の定量吐出スクイズ容器によれば、容器本体の形状のみを工夫することによって、繰り返しスクイズ操作した際の容器本体のスクイズ変形量にバラツキが生じないように規制して、内容液を一定量ずつ吐出させることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明の好ましい第1実施形態に係る定量吐出スクイズ容器の容器本体の斜視図である。

【図2】本発明の好ましい第1実施形態に係る定量吐出スクイズ容器の容器本体の、(a)は正面図、(b)は側面図、(c)は背面図である。

【図3】(a)は図2(a)のA-Aに沿った端面図、(b)は図2(a)のB-Bに沿った端面図である。

【図4】(a)、(b)は、本発明の好ましい第1実施形態に係る定量吐出スクイズ容器において、スクイズ操作時に容器本体のスクイズ変形量を規制する状況を説明する模式断面図である。

30

【図5】本発明の好ましい第2実施形態に係る定量吐出スクイズ容器の容器本体の斜視図である。

【図6】本発明の好ましい第2実施形態に係る定量吐出スクイズ容器の容器本体の、(a)は正面図、(b)は側面図、(c)は背面図である。

【図7】(a)は図6(a)のC-Cに沿った端面図、(b)は図6(a)のD-Dに沿った端面図である。

【図8】(a)、(b)は、本発明の好ましい第2実施形態に係る定量吐出スクイズ容器において、スクイズ操作時に容器本体のスクイズ変形量を規制する状況を説明する図6(a)のC-Cに沿ったの模式断面図である。

40

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、図面を参照しつつ、本発明を具体的に説明する。図1～図3に示す本発明の好ましい第1実施形態に係る定量吐出スクイズ容器10は、スクイズ変形可能なプラスチックからなる容器本体11と、容器本体11の口首部12に着脱可能に装着されるキャップ部材(図示省略)とからなる。スクイズ容器10には、内容液として、例えば衣料用液体洗剤、柔軟剤、漂白剤、食器用洗剤、入浴剤等を収容することができる。スクイズ容器10は、容器本体11の胴部13を把持して傾倒又は倒立させた状態で、把持した胴部13をスクイズ方向Xにスクイズ(圧搾)することで容器本体11を変形させることにより、例

50

えばキャップ部材に設けられた吐出口から、内容液を吐出箇所に向けて所定量吐出させることができる。スクイズ容器 10 は、容器本体 11 の形状のみを工夫することによって、例えば胴部 13 の所定の位置を指で圧搾して繰り返しスクイズ操作した際に、容器本体 11 のスクイズ変形量にバラツキが生じないように規制して、内容液を一定量ずつ吐出させることができる機能を備えている。

【0011】

すなわち、本第 1 実施形態の定量吐出スクイズ容器 10 は、スクイズ変形可能なプラスチックからなる容器本体 11 を備え、容器本体 11 をスクイズ変形させて吐出口から内容液を所定量吐出させるスクイズ容器である。図 1 および図 2 に示すように、容器本体 11 には、これの胴部 13 の少なくとも一部に、スクイズ操作を行うスクイズ操作部 14 が設けられている。スクイズ操作部 14 は、鈍角で交差する 2 面に沿って配置される一対の斜面部 15 を含む山形状断面を有する圧搾面部 16 と、この圧搾面部 16 の山形状断面の裾部 19b と稜線部 17 を介して一体として接合される、円弧状断面を有する圧搾支持部 18 とからなる横断面形状を有している。

10

【0012】

そして、圧搾面部 16 の山形状断面の頂部 19a における所定の位置に指を押し当ててスクイズ方向 X に圧搾した際に（図 4（a）参照）、一対の斜面部 15 が交差角度を拡げるように変形しながら、両側の山形状断面の裾部 19b の間隔を円弧状断面の圧搾支持部 18 との稜線部 17 において押し拡げる。両側の裾部 19b の間隔を押し拡げる力が無くなるまで斜面部 15 が変形した後（図 4（b）参照）、圧搾面部 16 は谷形状に反転しないように規制される。これによって、所定の位置に指を押し当てて繰り返し行われるスクイズ操作による容器本体 11 のスクイズ変形量にバラツキが生じなくなると、内容液を一定量ずつ吐出させることが可能になる。

20

【0013】

また、本第 1 実施形態では、スクイズ操作部 14 の圧搾面部 16 の山形状断面の頂部 19a は、一対の斜面部 15 が接合するスクイズ稜線部 20 となっている。

【0014】

本第 1 実施形態では、容器本体 11 は、例えばポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン、高密度ポリエチレン、塩化ビニル等の、スクイズ変形可能なプラスチック容器を形成するのに適した公知の各種の合成樹脂を用いて、例えばブロー成形することにより、底部 22 と、胴部 13 と、肩部 23 と、口首部 12 とを備える中空のボトル形状に形成される。また、容器本体 11 は、上端部分の肩部 23 及び口首部 12 と、下端部分の底部 22 とが胴部 13 よりも厚肉に形成されると共に、肩部 23 と底部 22 は、円形の平面形状を備えるように形成される。これによって、上胴部 13a の上端部分及び下胴部 13b の下端部分の円形の断面形状（図 3（b）参照）を、強固に且つ安定した状態で保持させるようになっている。

30

【0015】

そして、本第 1 実施形態では、肩部 23 と底部 22 との間に挟まれる胴部 13 は、スクイズ操作部 14 と、スクイズ操作部 14 の上方に連続する、スクイズ操作部 14 とは異なる断面形状を有する上胴部 13a と、スクイズ操作部 14 の下方に連続する、スクイズ操作部 14 とは異なる断面形状を有する下胴部 13b とを含んで形成されている。胴部 13 は、肩部 23 や底部 22 よりも薄肉に形成されており、スクイズ操作部 14 の圧搾面部 16 は、後述するように、胴部 13 を把持した手や指の力によって容易にスクイズ変形することが可能な可撓性を有する構造となっている。

40

【0016】

本第 1 実施形態では、スクイズ操作部 14 は、胴部 13 の周方向に延設する上下それぞれの環状境界リブ 24a、24b によって上方の円形状断面の上胴部 13a や下方の円形状断面の下胴部 13b から区画される。スクイズ操作部 14 は、山形状断面を有する圧搾面部 16 と円弧状断面を有する圧搾支持部 18 とが稜線部 17 を介して一体として成形された形状を備えている（図 3（a）参照）。

50

【 0 0 1 7 】

圧搾面部 1 6 は、鈍角で交差する 2 面に沿って配置される一対の斜面部 1 5 からなり、これらの斜面部 1 5 が交差する接合部分には、縦方向に延設するスクイズ稜線部 2 0 が、圧搾面部 1 6 の中央部分に配置されて山形状断面の頂部 1 9 a として設けられている。また、本第 1 実施形態では、スクイズ稜線部 2 0 は、滑らかに湾曲する曲面として設けられており、この縦方向中央部分には、指を押し当ててスクイズ操作を行うべき所定の位置を案内するスクイズ位置ガイド部 2 1 が、スクイズ稜線部 2 0 と段差を有する凸部として設けられている。一対の斜面部 1 5 のスクイズ稜線部 2 0 とは反対側の裾部 1 9 b は、スクイズ稜線部 2 0 と平行に配置されて縦方向に延設する稜線部 1 7 を介して圧搾支持部 1 8 と接合している。

10

【 0 0 1 8 】

圧搾支持部 1 8 は、圧搾面部 1 6 と対向してスクイズ操作部 1 4 の背面側に配置される部分であって、相当の保形剛性を備えていることにより、スクイズ操作時に圧搾面部 1 6 に加えられる圧搾力を安定した状態で支持させることができるようになっている。本第 1 実施形態では、圧搾支持部 1 8 は、半円弧形状を僅かに超える円弧状断面を有しており、保形剛性の大きなその円弧形状によって、例えば胴部 1 3 を把持した手の平に、圧搾支持部 1 8 を変形させることなく圧搾力の反力を効率良く支持させることができるようになっている。

【 0 0 1 9 】

また、本第 1 実施形態では、円弧状断面を有する圧搾支持部 1 8 に、当該圧搾支持部 1 8 の保形剛性を向上させる剛性補強リブ 2 5 が、周方向に延設して上下方向に間隔をおいて複数設けられており、剛性補強リブ 2 5 によって、圧搾面部 1 6 に圧搾力を負荷した際の反力をさらに効率良く支持させることが可能になる。

20

【 0 0 2 0 】

そして、上述の構成を有する本第 1 実施形態の定量吐出スクイズ容器 1 0 によれば、容器本体 1 1 をスクイズ変形させて内容液を定量吐出させるには、容器本体 1 1 の胴部 1 3 を把持して容器 1 0 を傾倒又は倒立させた後に、吐出口を吐出箇所に向けた状態で、例えば親指をスクイズ位置ガイド部 2 1 に押し付けて、圧搾面部 1 6 のスクイズ稜線部 2 0 に圧搾力を付加する。これによって、図 4 (a)、(b) に示すように、圧搾支持部 1 8 に圧搾力を支持させつつ、スクイズ位置ガイド部 2 1 に近接する部分のスクイズ稜線部 2 0 がスクイズ方向 X に押し込まれると共に、スクイズ位置ガイド部 2 1 に近接する部分の一対の斜面部 1 5 が、これらの交差角度を拡げるように変形しながら、圧搾支持部 1 8 との接合部分である、両側の裾部 1 9 b の稜線部 1 7 間の間隔を押し拡げていく。これに伴って、圧搾面部 1 6 の山形状断面が平坦になるように押し潰されて、容器本体 1 1 の容量が減少するので、この容量の減少によって内容液を吐出させることが可能になる。

30

【 0 0 2 1 】

また、本第 1 実施形態では、スクイズ位置ガイド部 2 1 に近接する部分の一対の斜面部 1 5 が、スクイズ稜線部 2 0 を挟んで直線状に連設するまで変形すると (図 4 (b) の破線参照)、圧搾面部 1 6 の山形状断面がほぼ平坦に伸びきった状態となって、一対の斜面部 1 5 は、これ以上稜線部 1 7 間の間隔を押し拡げることができなくなる。この状態から、圧搾面部 1 6 のスクイズ稜線部 2 0 をスクイズ方向 X にさらに押し込んで一対の斜面部 1 5 をスクイズ方向 X 側に反転させようとしても、圧搾力を負荷されたスクイズ位置ガイド部 2 1 から離れた位置では、未だ一対の斜面部 1 5 が直線状になるまで変形していないことから、このスクイズ位置ガイド部 2 1 から離れた部分の一対の斜面部 1 5 による山形状断面の作用によって、指を押し当てたスクイズ位置ガイド部 2 1 に近接する部分の一対の斜面部 1 5 は、スクイズ方向 X 側に反転しないように規制される。これによって、例えば親指をスクイズ位置ガイド部 2 1 に押し付けて圧搾力を加えた際には、常に一定の変形量で容器本体 1 1 がスクイズ変形する、すなわち繰り返し行われるスクイズ操作による容器本体 1 1 のスクイズ変形量にバラツキが生じなくなるので、所定量の内容液を容易に定量吐出させることが可能になる。

40

50

【 0 0 2 2 】

したがって、本第 1 実施形態の定量吐出スクイズ容器 1 0 によれば、容器本体 1 1 の形状のみを工夫することによって、繰り返しスクイズ操作した際の容器本体 1 1 のスクイズ変形量にバラツキが生じないように規制して、内容液を一定量ずつ吐出させることが可能になる。

【 0 0 2 3 】

また、本第 1 実施形態の定量吐出スクイズ容器 1 0 によれば、環状境界リブ 2 4 a、2 4 b が設けられていることにより、胴部 1 3 のスクイズ操作部 1 4 以外の部分（上胴部 1 3 a、下胴部 1 3 b）に変形が及ばないようにになっている。従って、胴部 1 3 において、上胴部 1 3 a、下胴部 1 3 b は、スクイズ操作部 1 4 とは断面形状の異なる形状を自由に選択できる。なお、本第 1 実施形態ではスクイズ操作部 1 4 の上下にそれぞれ上胴部 1 3 a と下胴部 1 3 b を設けているが、これらは無くてもよく、また吐出量の調整はこれら上胴部 1 3 a や下胴部 1 3 b の有無により影響をされるものではない。

【 0 0 2 4 】

また、本第 1 実施形態では、一对の斜面部 1 5 のスクイズ稜線部 2 0 を挟んだ両側に、スクイズ変形誘導リブ 2 6 を設けている。スクイズ変形誘導リブ 2 6 は、一对の斜面部 1 5 におけるスクイズ稜線部 2 0 近傍のほぼ中央付近に、当該スクイズ稜線部 2 0 と直行する横リブとして各 1 箇所形成されている。すなわち、一对のスクイズ変形誘導リブ 2 6 は、スクイズ稜線部 2 0 を跨いでほぼ一直線に設けられている。スクイズ稜線部 2 0 に直交して一对のスクイズ変形誘導リブ 2 6 を設けることにより、一对の斜面部 1 5 が常に安定した形状で変形するため、吐出量のバラツキを低減し、安定化させる効果を有する。また、使用者が押圧した際に感じる一定の変形感触（クリック感）を高める効果も有する。

【 0 0 2 5 】

本実施形態では、環状境界リブ 2 4 a、2 4 b の間の距離（スクイズ操作部 1 4 の容器本体 1 1 の軸方向の長さ）、左右の稜線部 1 7 間の距離（圧搾面部 1 6 の容器本体 1 1 の幅方向の長さ）、一对の斜面部 1 5 が山形状断面の頂部 1 9 を形成する角度等を適宜設計することにより、所望の吐出量を得ることができる。

【 0 0 2 6 】

図 5 ~ 図 7 は、本発明の好ましい第 2 実施形態に係る定量吐出スクイズ容器 3 0 の容器本体 3 1 を示すものである。本第 2 実施形態によれば、容器本体 3 1 は、上記第 1 実施形態の定量吐出スクイズ容器 1 0 の容器本体 1 1 と同様に、合成樹脂を用いて、胴部 3 3 と、底部 3 4 と、肩部 3 5 と、口首部 3 2 とを備える中空のボトル形状に形成される。また、本第 2 実施形態では、厚肉に形成された肩部 3 5 と底部 3 4 との間に挟まれる薄肉の胴部 3 3 の略全体が、肩部 3 5 や底部 3 4 との明確な境界を有することなくこれらと滑らかに連続するスクイズ操作部 3 6 となっている。

【 0 0 2 7 】

そして、本第 2 実施形態では、スクイズ操作部 3 6 は、鈍角で交差する 2 面に沿って配置される一对の斜面部 3 7 を含む山形状断面を有する圧搾面部 3 8 と、この圧搾面部 3 8 の山形状断面の裾部 4 4 b と稜線部 3 9 を介して一体として接合される、U 字状断面を有する圧搾支持部 4 0 とからなる横断面形状を有している。また、圧搾面部 3 8 の山形状断面の頂部 4 4 a は、一对の斜面部 3 7 の間に介在する平坦なスクイズ面部 4 1 となっている。

【 0 0 2 8 】

すなわち、圧搾面部 3 8 は、鈍角で交差する 2 面に沿って配置される一对の斜面部 3 7 と、これらの間に介在して設けられたスクイズ面部 4 1 とからなり、一对の斜面部 3 7 とスクイズ面部 4 1 とは、縁部稜線部 4 2 を介して一体として連設している。また、本第 2 実施形態では、圧搾面部 3 8 の上端部には、外方に向けて滑らかに隆起する隆起部 3 8 a が形成されている。スクイズ面部 4 1 の上部において、スクイズ面部 4 1 の両側の一对の縁部稜線部 4 2 は、この隆起部 3 8 a の先端部に向けて互いの間隔を徐々に狭めて行くようになっている。さらに、本第 2 実施形態では、スクイズ面部 4 1 の上部における、隆起

部 3 8 a の基端開始部の幅方向中央部分に配置されて、指を押し当ててスクイズ操作を行うべき所定の位置を案内するスクイズ位置ガイド部 4 3 が、スクイズ面部 4 1 と段差を有する凸部として設けられている。

【 0 0 2 9 】

圧搾支持部 4 0 は、本第 2 実施形態では、U 字状断面を有している。すなわち、圧搾支持部 4 0 は、圧搾面部 3 8 と対向してスクイズ操作部 3 6 の背面側に配置される円弧状部 4 0 a と、円弧状部 4 0 a の両側に湾曲接合部 4 0 b を介して接合されて、スクイズ方向 X と平行又は略平行な方向に沿って配置される一対の側面支持壁部 4 0 c とからなる、全体として略 U 字形の断面形状を有している。本第 2 実施形態では、圧搾支持部 4 0 は、円弧形状の円弧状部 4 0 a とスクイズ方向 X に沿った一対の側面支持壁部 4 0 c とが一体とな

10

【 0 0 3 0 】

また、本第 2 実施形態では、圧搾支持部 4 0 の円弧状部 4 0 a から両側の側面支持壁部 4 0 c まで周方向に延設する、圧搾支持部 4 0 の保形剛性を向上させる剛性補強リブ 4 5 が、上下方向に間隔をおいて複数設けられており、これによって、圧搾面部 3 8 に圧搾力を負荷した際の反力をさらに効率良く支持させることができるようになっている。

【 0 0 3 1 】

そして、上述の構成を有する本第 2 実施形態の定量吐出スクイズ容器 3 0 によっても、容器本体 3 1 の胴部 3 3 を把持して吐出口を吐出箇所に向けた状態で、例えば親指をスクイズ位置ガイド部 4 3 に押し付けて、スクイズ面部 4 1 に圧搾力を付加すれば（図 8（a）参照）、圧搾支持部 4 0 に圧搾力を支持させつつ、スクイズ位置ガイド部 4 3 に近接する部分のスクイズ面部 4 1 がスクイズ方向 X に押し込まれると共に、スクイズ位置ガイド部 4 3 に近接する部分の一対の斜面部 3 7 が、これらの交差角度を広げるように変形しながら、圧搾支持部 4 0 との接合部分である、両側の裾部 4 4 b の稜線部 3 9 間の間隔を押し広げていく。これに伴って、圧搾面部 3 8 の山形状断面が平坦になるように押し潰されて（図 8（b）参照）、容器本体 1 1 の容量が減少するので、この容量の減少によって内容物を吐出させることが可能になる。

20

【 0 0 3 2 】

また、スクイズ位置ガイド部 4 3 に近接する部分の一対の斜面部 3 7 が、スクイズ面部 4 1 を挟んで直線状になるまで変形すると（図 8（b）の破線参照）、圧搾面部 3 8 の山形状断面が平坦に伸びきった状態となって、一対の斜面部 3 7 は、これ以上稜線部 3 9 間の間隔を押し広げることができなくなる。この状態から、スクイズ面部 4 1 をスクイズ方向 X にさらに押し込んで一対の斜面部 3 7 をスクイズ方向 X 側に反転させようとしても、圧搾力を負荷されたスクイズ位置ガイド部 4 3 から離れた位置では、未だ一対の斜面部 3 7 が直線状になるまで変形していないことから、圧搾力を負荷されたスクイズ位置ガイド部 4 3 から離れた部分の一対の斜面部 3 7 による山形状断面の作用によって、スクイズ位置ガイド部 4 3 に近接する部分の一対の斜面部 3 7 は、スクイズ方向 X 側に反転しないように規制される。これによって、例えば親指をスクイズ位置ガイド部 4 3 に押し付けて圧搾力を加えた際には、常に一定の変形量で容器本体 3 1 がスクイズ変形することになるので、本第 2 実施形態の定量吐出スクイズ容器 3 0 は、上記第 1 実施形態の定量吐出スクイズ容器 1 0 と同様の作用効果を奏することになる。

30

【 0 0 3 3 】

なお、本発明は上記各実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、山形状断面の圧搾面部の頂部に設けられるスクイズ位置ガイド部は、凹形状にしたり、金型表面の粗さを部分的に変えて容器表面を粗くしたり、ラベル印刷等によってスクイズ操作を指で行う位置を明示することによって設けることもできる。また、スクイズ稜線部は、滑らかな湾曲面でなく、平面状に設けることもできる。さらに、スクイズ位置ガイド部を設ける位置や、スクイズ操作を行う位置は、圧搾面部の頂部の中央部分以外に、圧搾

40

50

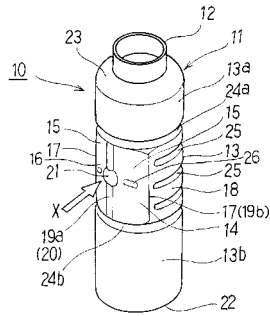
面部の頂部付近の任意の位置としてスクイズ操作を行わせることもできる。また、スクイズ位置ガイド部を複数箇所にて設けておき、圧搾位置を選定して、定量吐出される内容液の吐出量を調整できるようにしても良い。

【符号の説明】

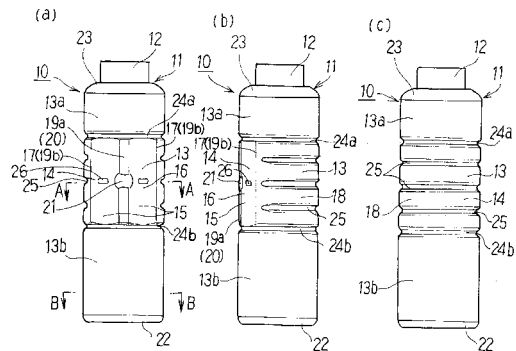
【 0 0 3 4 】

1 0 , 3 0	スクイズ容器	
1 1 , 3 1	容器本体	
1 2 , 3 2	口首部	
1 3 , 3 3	胴部	
1 3 a	上胴部	10
1 3 b	下胴部	
1 4 , 3 6	スクイズ操作部	
1 5 , 3 7	斜面部	
1 6 , 3 8	圧搾面部	
1 7 , 3 9	稜線部	
1 8	半円弧状断面の圧搾支持部	
1 9 a , 4 4 a	圧搾面部の頂部	
1 9 b , 4 4 b	圧搾面部の裾部	
2 0 ,	スクイズ稜線部	
2 1 , 4 3	スクイズ位置ガイド部	20
2 2 , 3 4	底部	
2 3 , 3 5	肩部	
2 4 a , 2 4 b	環状境界リブ	
2 5 , 4 5	剛性補強リブ	
2 6	スクイズ変形誘導リブ	
3 8 a	隆起部	
4 0	U字状断面の圧搾支持部	
4 0 a	円弧状部	
4 0 b	湾曲接合部	
4 0 c	側面支持壁部	30
4 1	スクイズ面部	
4 2	縁部稜線部	
X	スクイズ方向	

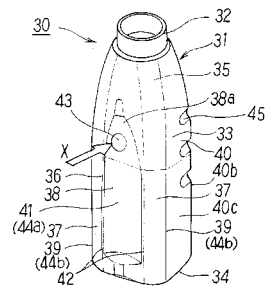
【図 1】



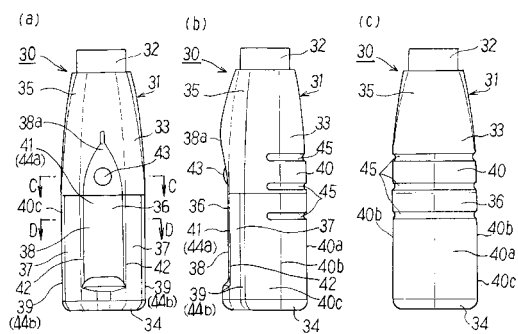
【図 2】



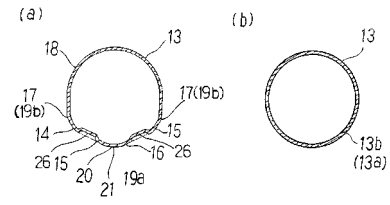
【図 5】



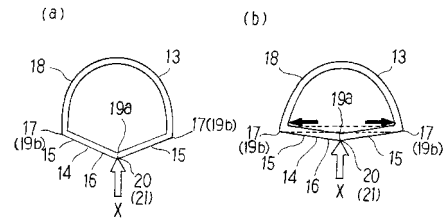
【図 6】



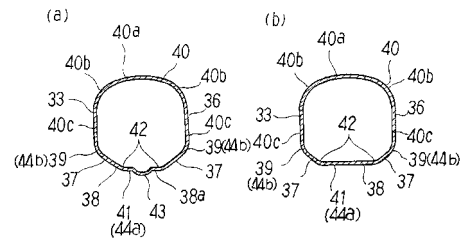
【図 3】



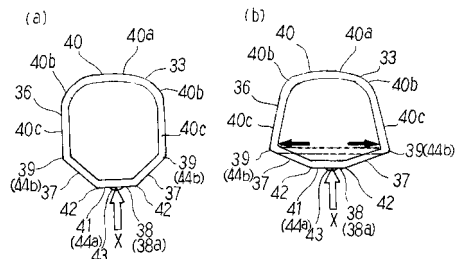
【図 4】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

- (72)発明者 藤波 進
東京都中央区日本橋茅場町 1 - 1 4 - 1 0 花王株式会社内
- (72)発明者 後藤 寛
東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

審査官 楠永 吉孝

- (56)参考文献 登録実用新案第 3 0 6 1 0 4 2 (J P , U)
実開昭 5 4 - 1 8 0 0 5 7 (J P , U)
特開平 1 0 - 0 2 4 9 5 0 (J P , A)
実開昭 5 9 - 0 1 3 4 1 8 (J P , U)
仏国特許出願公開第 2 2 3 1 5 7 1 (F R , A 1)
米国特許第 3 2 3 2 4 9 5 (U S , A)

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
B 6 5 D 8 3 / 0 0
B 6 5 D 1 / 3 2